World View アジア発

シリーズ「アジアほっつき歩る記」第69回

日本のセキュリティに対する僅かな違和感

須賀（すが）　努（つとむ）
コラムニスト・アジアンウオッチャー

現在世界では様々な紛争やテロが起こっており、飛行機に乗る時は勿論、ホテルに泊まる場合でも、自らを証明することは必須となってきている。ところが日本を旅していると、『誰が飛行機に乗っているのか、誰がここに泊まっているのか分からないのではないか』といった場面に遭遇する。今回は地震など災害への対応と合わせて、日本のセキュリティについて考えてみたい。

本人確認不要の日本のホテル

先日、所用で九州の佐賀を訪れた。地元の友人に某ホテルチェーンの予約を頼み、当日チェックインしようとしたところ、『ご住所は？』と聞かれたので、『海外の住所を書きましょうか』と聞き返すと、『それならパスポートの提示をお願いします』と言われて慌ててしまった。海外を旅する時は必携のパスポートだが、日本国内で提示を求められたことなどこれまでになく、携帯していなかったからだ。日本でホテルに泊まる場合、普通はチェックインの際に予約した名前を言えばすぐに鍵がもらえる。

これは日本人だけの特権？であり、おそらく外国人が泊まる場合は必ずパスポートの提示を求められるはずだ。2005年に厚生労働省から『日本国内に住所を有しない外国人の方の旅館・ホテル等における本人確認措置については旅券の提示を求めるとともに、旅券の写しを取る』という通知が出ているようだが、海外在住日本人への対応はどうなのだろうか。

結局、今回のケースは『国内留守宅住所』を記入して難を逃れた？のだが、何となく釈然としない。同じ日本人なのに、なぜ海外在住だとパスポートの提示を求められるのか。国内留守宅住所を調べれば、すぐに身元照会できるシステムなど日本にあるのだろうか？　ちなみに、翌日別のホテルチェーンに移ると、『国内携帯番号』を記入するだけで住所は不要だった。

その時に台湾の友人の言葉を思い出した。『日本には素晴らしい推理小説が沢山あるが、外国人に理解できないのは「ホテルに偽名で泊まる」こと。他国では国内で宿泊する場合でも、身分証の提示が一般的であり、偽名で簡単に宿泊できるトリックは成り立たない』と。日本には統一された身分証がないことが問題であり、実際に誰が泊まっているかが確認できないのだが、これでよいのだろうか。

国内線搭乗にも本人確認はない

宿泊だけでなく、国内線のフライトに乗る場合にも、特に本人確認のチェックがかからないという不思議な現象が日本にはある。大手航空会社ではネット予約すれば、QR コードが送られてきて、スマホをかざすだけで搭乗口まで進むことができるのだ。これもテロ対策などのセキュリティが厳しい国からみるとどう映るのだろうか。また、外国人だけがパスポート提示を求められることについて、「差別的な対応」と指摘される

写真１　那覇空港出口のゴミ箱

撮影：佐渡多真子

【須賀努氏のプロフィール】
東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾２年、香港通算９年、北京同５年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

ことはないのだろうか。

空港会社に勤める友人が『危険物の持ち込みはきちんとチェックしているから大丈夫だ』と言っていたのを聞いた記憶はあるが、そもそも誰が乗っているかが把握できないことに問題はないのだろうか。万が一墜落などの事故があった場合、推理小説では身替わりをトリックに使うことがあるようだし、実際に保険金詐欺などで問題は起こらないのだろうか。

先日搭乗した国内線では、機長のアナウンスは日本語だけで英語はなかった。日本ではいつもそうなのかと思って念のため聞いてみると『本日のご搭乗者は全員日本の方でしたので』と説明されたが、どうやって日本人だと確認したのだろうか。まさか顔を見て判断したとも思えない。

他方で、国内線で気になっているのが、荷物検査や搭乗口で座席番号などが書かれた紙を何度も渡されることだ。せっかくスマホだけで搭乗できるのに、なぜこんなに何種類も紙が必要なのか。ペーパーレスやエコなどの概念はないのだろうか。ご丁寧に到着空港の出口には、その紙を捨てるためのごみ箱がいくつも置かれているが、とても先進国の対応とは思えない。

地震時の対応

少し前になるが、羽田空港に到着してすぐに震度３の地震に遭ったことがある。東京で震度３程度の地震は時々あるので驚きはしなかったが、それにより空港から都心への電車がかなり混乱しており、『いつ電車が来るのか、行先は？　各駅停車か急行か？』など、日本人であってもなかなか状況が把握できずに困ってしまった。

しかもホームでのアナウンスは日本語のみで、多くの外国人客はただ茫然としており、何人かが恐るおそる状況を尋ねてきた。外国人観光客誘致に熱心な日本政府ではあるが、災害時の対応には全く手が回っていないように思える。というより、普段でも駅のホームで英語や中国語でアナウンスする駅員など新幹線ホームで１、２度見かけただけで、ほとんどいないとすると、有事に全く対応できないのではないか思ってしまう。だが、本当にこんなことでよいのだろうか。

鉄道会社に勤める若者に聞いたところ『鉄道オタクの採用にはある程度制限があると思うが、英語や中国語ができる人材をドンドン採用しているという話は聞かない』と言われてしまった。当然のことながら、突然全ての職員が外国語を話せるようになるわけではないから、必要な人材を計画的に採用し、また研修していくべきではないかと思う。ちなみに、バス会社も同様である。

同時に地震や台風などの自然災害が多い日本において、もし外国人観光客を本気で増やそうと考えているのであれば、『おもてなし』などという抽象的な言葉ではなく、具体的な外国人向けの災害対応が早急の課題になるはずだ。オリンピックに向けて徐々に改善していくのではなく、早急に日本の安全性を高める行動を切に願っている。

写真２　国内線に預ける荷物は誰の物？